

1. プロジェクト発表会（案）

プロジェクト発表会は、日頃のプロジェクト活動の成果を発表し、クラブ員の3大目標を高めるとともに、専門的な能力や態度を高めることを目的とする。

（1）発表分野と内容

分 野	内 容
I 類 農業生産 農業経営	1 農業生物の育成や生産性向上に関すること 2 農業生産物の加工・流通・消費に関すること 3 農業の経営や経済活動に関すること
II 類 国土保全 環境創造	1 国土の保全や環境創造に関すること 2 森林資源の活用に関すること
III 類 資源活用 地域振興	1 園芸作物や社会動物の活用に関すること 2 地域資源の活用や地域の振興に関すること

（2）出場資格

発表に参加するクラブ員は発表分野ごとに、ブロック連盟で審査の結果、最優秀に選ばれたグループとする。

（3）発表方法

- ① 発表は視聴覚機器を使用した演台からの口頭発表とする。必要に応じ標本、模型などを使用した演示をしてもよい。また、発表用スライドには音声、動画が挿入されていてもよい。
- ② プロジェクターの台数は、1台とする。
- ③ 会場で使用する視聴覚機器のうち、全国大会事務局で用意するものについては「全国大会実施要項」に掲載する。
- ④ 発表終了後に質疑応答を行う。
- ⑤ 事前に提出した発表原稿と発表内容が異なることは認められない。ただし、発表の一字一句の違いを判断するものではない。

（4）発表及び準備時間

- ① 発表時間は10分以内として、超過2分で発表打ち切りとする。
- ② 時間計測は表現開始より表現終了までとする。
- ③ 表現開始とは、発声者の第一声、演示の開始のうち早いものとする。
- ④ 表現終了とは、演示の終了かつ発表者が「終わります」や「終わりました」など、終わりを告げるまでとする。
- ⑤ 時間表示はベルで行い、8分（1鈴）、10分（2鈴）、12分（乱鈴）とする。
- ⑥ 発表準備のための時間は3分以内とし、2分（1鈴）、3分（2鈴）、5分（乱鈴）で打ち切りとする。
- ⑦ 準備時間の計測は「準備を始めてください」のアナウンスより開始し、発表者が「終わります」や「終わりました」など、終わりを告げるまでとする。

（5）発表者および発表補助者

- ① 個人研究にあっても補助者を含む発表とする。
- ② 発表者および発表補助者は、合わせて10名以内とし、学科・学年は問わない。
- ③ 発表者は口頭発表を行う者とし、3名以内とする。3名の内1名は、発表終了後の質疑に答える。発表補助者は視聴覚機器の操作、標本・模型の演示など、発表の補助者を行う者とする。

(6) 審査および審査会

- ① 審査は発表分野ごとにプレイスナンバー方式で行い、最優秀、優秀を選出する。
- ② 審査員は、文部科学省等指導係官、校長、顧問教師、学校農業クラブに理解の深い学識経験者などから選出する。
- ③ 審査会の構成は、日本学校農業クラブ連盟、開催ブロック連盟および開催県の協議により決定する。
- ④ 審査員は、審査をするとともに、発表に対する質疑応答および指導講評を行う。

(7) 表彰

入賞者に対して表彰を行う。

(8) 事前資料

審査のための資料として、下記のを全国大会HPよりダウンロードして作成し、大会事務局が定めた期日までに提出する。

① エントリーシート30部

様式は（様式全一プ1）とする。

② 活動記録簿A4ファイル1冊

a) 活動期間の記録の中で、発表に直接関係のある資料や写真を精選し、A4ファイル1冊に整理したもの。（後日返却する。）

b) 表紙の様式は（様式全一プ2）とする

※表表紙、裏表紙、背表紙に装飾や写真を使用しない。

③ 発表原稿30部

a) 図表、写真、発表に使用する内容を示すものを含めたもの。

b) 用紙はA4版とし、横書き、片面印刷とする。

c) 表紙の様式は（様式全一プ3）とする。

d) 原稿の書式は、余白を上下各20mm、左右各25mm、1行40字×40行、MS明朝体10.5ポイントとすること。

※表紙に装飾や写真を使用しない。

(9) 審査基準と配点

項目	事前資料 (Profile)		発表 (Project Publication)						
審査	発表原稿 と 活動記録簿		発表内容 (Contents)		発表方法 (Presentation)				
配点	20点		50点		30点				
審査	1	発表原稿は誤字脱字なく書かれており、図表等を活用しわかりやすくまとめられているか	4点	1	エントリーシートの内容を踏まえ、学びの実態に即した構成であるか	5点	1	発表に関する準備や機器の活用は適切であったか	5点
	2	活動は計画的で、検証・評価に基づき、学びの実態を踏まえた適切な方法を用いているか	4点	2	関係する科目における見方、考え方をいかし、課題の解決に向けて学びに向かう姿勢がみられるか	15点	2	発表方法や態度は適切であり、分かりやすいものであったか (発表中の特殊なパフォーマンスを評価するものではない)	15点
	3	課題解決に向けて実践記録やデータ収集が適切に行われているか	4点	3	自然環境、生活環境や地域創造を考慮した持続可能な取り組み内容となっているか	15点			
	4	記載されている結果には再現性や信頼性があるか	4点	4	発表内容は精選され、成果は論理的・客観的に検討されているか	15点	3	審査員からの質疑に対して、適切な応答ができているか	10点
	5	掲載されている資料は、精選され適切な内容となっているか	4点						

(10) ペナルティー

① 発表時間および準備時間超過による減点

超過時間	30秒まで	30秒超過～60秒まで	60秒超過～90秒まで	90秒超過～120秒まで	120秒を超過し、打ち切りとなったもの
減点	2点	4点	6点	8点	10点

② 事前資料 (エントリーシート30部、活動記録簿1冊、発表原稿30部) の遅延による減点

提出期限に遅れた場合	提出しない場合
事前資料の点数を0点とする	発表についても審査しない

プロジェクト発表会実施基準についての補足説明

1 「発表内容」について

発表内容は、農業クラブ員が日ごろの農業関係科目の学習をとおして学んでいるもの、およびそれらを発展・応用したもの、さらにホームプロジェクトで行っている農業学習に関連したもの。

2 「発表分野」について

① 発表分野と具体的な研究内容

	具体的な研究内容（例）
I 類 農業生産 農業経営	・栽培・飼育に関する研究 ・肥料や薬剤に関する研究 ・農業生産物の加工・流通・保全・管理に関する研究 ・農業経営・農業経済に関する研究 など
II 類 国土保全 環境創造	・農業土木や造園、林業の事業の計画・実施・管理に関する研究 ・生物多様性の保全に関する研究 ・林産物の利用に関する研究 ・持続可能な環境の創造に関する研究 など
III 類 資源活用 地域振興	・園芸作物や社会動物を用いた生活の質を向上させる研究 ・療法や交流に必要な技術に関する研究 ・農山村社会や地域社会に根ざした事業の振興に関する研究 ・地域資源の魅力創造・異業種連携・商品価値の創造・情報の活用と発信や観光に関する研究 ・食農教育や農福連携に関する研究 など

② 分野の取り扱い方

「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 農業編」では、「農業科の内容構成（分野構成、p19. 以下、分野構成）」を「農業生産や農業経営」、「食品製造や食品流通」、「国土保全や環境創造」及び「資源活用や地域振興」の 4 つに農業科目の内容等が整理された。これらを参考に、これまでの「プロジェクト発表」の歴史的経緯も踏まえ、全国大会実施基準（プロジェクト発表）の分野を、I 類「農業生産・農業経営」、II 類「国土保全・環境創造」、III 類「資源活用・地域振興」とした。

発表分野を決定する際には、各学科等で学ぶ農業科目の「分野構成」にこだわらず、日頃の農業学習で何を学び、地域課題が何なのかを整理し、その課題解決に向けた活動が I～III 類のどの分野に位置づけられるのかで判断する必要がある。なお、活動の基礎となる関係科目が複数に分野にまたがる場合も同様である。

3 「発表および準備時間」について

準備時間の設定の目的は、マイクやプロジェクター等の点検にあるから、発表内容の宣伝や拡大と認められた場合は、採点基準の「発表方法」で減点の対象とする。

4 「表現開始」について

①時間計測を開始する表現開始のうち、「演示の開始」はスクリーンへの映写開始も含まれる。

ただし、ブラックスクリーンは演示に含めない。

②表現開始のスライドは、アニメーション機能を使用できない。

5 「表現終了」について

①「終わります」や「終わりました」など終わりがはっきりとわかる表現であれば文言は問わない。

②表現終了は、発表者の終わりを告げる発声と演示の終了のどちらも成立していなければならない。成立した時点を表現終了とし計測を終了する。

6 「計測機器の持ち込み」について

計測機器は計時機能のみの機器とし、持ち込みは制限しない。発表中の補助者からの掲示や合図は認めない。